

地域と協同の 研究センターNEWS

2017年12月25日発行
160号

【巻頭言】

「普通のおばさんが社会福祉協議会会長になってしまいました」

前澤このみ（地域と協同の研究センター会員、三河地域懇談会世話人）

昨年3月、同居していた父を見送り、さまざまな後始末をして一周忌をすませました。「これで少しは自分のための時間をもてるかな？」と思った4月に、新城市副市長から「相談したいことがある」とのこと。「なんですか？」と副市長室を訪ねたところ、「市社会福祉協議会の会長をやってほしい。社会福祉協議会では働く人もボランティア活動する人も女性が多いのに、会長だけずっと男性なんておかしいよ」…一般論ならそのとおりですが、わが身のふり方はまた違うような。「家族と相談します」を口実に即答せずに帰りましたが、家族は「やってみれば？」と軽く言いました。（後で知りましたが県下53社会福祉協議会のうち4月当時女性会長は1市のみでした）

そんな訳で、まずは理事になり、6月の理事会で非常勤の会長に選出されました。

私と社会福祉協議会との関わりは、NPO法人で福祉有償運送の活動をしていた頃に法人代表が急逝し、事務所に困って旧鳳来町社会福祉協議会の倉庫をお借りして2011年までお世話になったことのみです。

会長として事務所にいと当時お世話になった職員の方が何名もいらして、長い空白の時間を経てまたこうして一緒に事務所にいられるのは地域で活動するご縁かなあと感じます。

私自身の地域活動は、青年団に始まり生協の活動や小さなNPOなど身の回りの必要に迫られてやってきました。

「気がついた人が声を上げる」「出来る人が出来ることをする」を基本にさまざまな活動をしてきて、何も無いところから必要なら作る。時にはやめてしまうこともアリ、でした。いつでもスタートは「私たち」や「私たちの思い」でした。市民活動とはそういうものだと思います。

今回、会長になって初めて「既に出来上がった組織」に入っていくという経験をしています。大きな職場で働いたことの無い私にとっては、それぞれ担当の職員の方々が毎日膨大な量の仕事をこなしているのを見て、「みんなのおかげです！」「会長が知らないことなんていっぱいあるよね！」と感じています。

社会福祉協議会の窓口には日々の困りごとが集まってきます。ひとつ一つは深刻で難しい内容でもありません。それでも、朗らかに真剣に事例にあたる職場の雰囲気はとても嬉しいことのひとつです。事務所が二階で南向きだから、ではなくて(笑)、明るい職場から地域に「福祉は我がこと」と考える人のつながりを広げることが出来るのではと思います。

会長就任から6ヶ月が過ぎましたが、知らないわからないこと山積みです。「わからないことはわかる人に聞く」を基本に周りのみんなから力と知恵を借りていこうと考えています。

「頑張ってやってよ！出来る協力はするで」と言ってくださる地域の方々が居れば、「見守り、支え合う、人にやさしく、住みやすいまちしんしろ」の基本理念を実践していけそうです。

(まえざわ・このみ)

CONTENTS

研究センター12月の活動

- 【巻頭言】「普通のおばさんが社会福祉協議会会長になってしまいました」/前澤このみ 1
- 【岐阜地域懇談会】「こころの声を聴く」当事者の立場に立った介護、支援とは・・・/河原洋之 2
- 【三重地域懇談会】鈴鹿市子ども食堂（りんごの家）と伊勢市子ども食堂（キラキラ星）のご紹介/事務局 3
- 【関わる人のエンパワメント】第四期組合員理事セミナーを開講してきました！（2016年度～2017年度）/事務局 4
- 【情報クラブ】 5
- 【企画案内】ネオニコチノイド系農薬とハチミツ 8
- 【書籍紹介】格差社会への対抗 新・協同組合論
＜著者：杉本貴志 編/全労済協会 監修＞
- 【2018年1月の予定】

- 12月1日(金)協同の未来塾「特別講座」
- 12月2日(土)東海交流フォーラム実行委員会、第3回理事会
- 12月8日(金)組合員理事セミナー⑨、協同組合による大学の学びと進路選択の支援（仮称）①
- 12月9日(土)生協の未来のあり方研究会第69回、協同の未来塾企画委員会
- 12月11日(月)市民講座企画検討会③
- 12月13日(水)三重地域懇談会世話人会、協同組合間協同相談会、三河地域懇談会世話人会
- 12月15日(金)研究フォーラム「食と農」世話人会
- 12月16日(土)くらしと生産をつなぐものづくり
- 12月18日(月)くらしを語りあう会、尾張地域懇談会世話人会、研究フォーラム地域福祉世話人会
- 12月20日(水)岐阜地域懇談会世話人会
- 12月21日(木)常任理事会

「こころの声を聴く」当事者の立場に立った介護、支援とは・・・

コープぎふ参与 河原洋之

2017年11月16日に中津川市（岐阜県）で開催された「あきの里・こまんば・ひなたぼっこ合同職員研修会」に、岐阜地域懇談会世話人4名で参加させていただきました。その研修会の“わきあいあい”とした雰囲気の中でも、ひとつピンとはりつめた空気の中に感じるものがありましたので報告します。

ことのきっかけは、岐阜地域懇談会世話人会で、**2016年11月に「特定非営利活動法人ひなたぼっこ（以下、ひなたぼっこ）」を訪問**したところから始まります。そこでは、最初に理事長の斎藤さんの話を伺い、デイサービスひなたぼっこ、24時間介護の施設を併設したグループホームそよかぜ、小規模多機能型居宅介護施設こまんばを見学させていただきました。斎藤さんには、2017年2月の東海交流フォーラムでも実践報告をしてもらいました。その運営は、当事者の立場にたちきつた介護を基本とし、職員全員参加運営を行い、障がいのある人もない人も給与水準は一緒というものでした。そのときの感想は、斎藤さんの考えのすばらしさもあったのですが、施設に入所しているかたの、本当に楽しそうでやわらかな表情と、働いていた障がいのある職員の真剣な仕事ぶりが心に残りました。そして、その後2017年7月に再度、斎藤さんを生活協同組合コープぎふ本部（岐阜県各務原市）にお招きして講演をしていただきました。このときの世話人会の率直な疑問は、「斎藤さんの言っていることはすばらしい。入所している方も満足しているようだ。でも、それを支えている職員集団はどんな気持ちで働いているのだろう。障がいのない人はある人と一緒の賃金で不満をもたないのだろうか。」というものでした。その後、世話人のメンバーでひなたぼっこの総会に参加したり、賛助会員になったりと、ひなたぼっことの距離を縮める取り組みも行われ、斎藤さんに相談したところ、職員研修会に参加したらどうかという提案をいただき、3回に分けて行われる合同職員研修会の第1回に4名の世話人が参加させてもらうことになりました。今回の合同研修会のテーマは、「こころの声を聴く」当事者の立場に立った介護、支援とはパート2 体験・事例を通して考える」というものでした。当日は、8時50分から斎藤さんの開会挨拶と趣旨説明がありました。その後、こまんば・ひなたぼっこ・そよかぜの3人の職員からのレポート報告、そしてそれを受けてグル

ープ討論、昼食をはさんで全体討論、古瀬医院高木先生の講演、質疑応答と続いて16時に閉会となりました。当初、遠隔地でもあり、朝9時から16時までの参加はきついで、部分参加させてもらえないかと斎藤さんをお願いしたのですが、「全部参加しないとわからんよ。」と一蹴され、全日参加となったのですが、確かにそのとおりで一日参加してよかったというのが参加者全員の率直な感想でした。

私と同じグループだった大橋さんが、ひなたぼっこ職員としてレポート報告をし、その中に以下の言葉がありました。大橋さんは義理のお父さんを看取ったあとでした。「義父やお年寄りの方との生活や関わりを通じて、大事なことはどんな最後をどこで誰と迎えたいのかだと今なら思える。一人ではなく、大切な人、身近な人が側で見送ってくれたら、それが安心で幸せなのかと。心が元気で、和やかになる支援を目指したいと思う。」グループ討論の中でも大橋さんは、目に涙をためてこの話しをされました。また、もう一人の同じグループの職員は、24時間介護の担当で、言葉も表情も動作も何もない人を介護することについて、「はじめは私なんかできっこないと思っていたが、真剣に向き合い、一生懸命見つめていたら表情が変わったように見えた。気持ちがわかるような気がした。」と話していただきました。参加した職員のみなさんの真剣に仕事に向き合う姿勢、そしてそこで起こるドラマ、私も自分の仕事への向き合い方について深く考えさせられました。他のグループでは、自分の労働条件や仕事について率直に不満を言われる方もいらっしやったと伺いましたが、その世話人が「そういうマイナスの方向に向かった話が堂々とできるところがすごい。」という感想を述べていました。

一日のみの参加でしたが、職員のみなさんの仕事に対する真剣さや、まわりの人たちへのやさしさが感じ取れて、大変有意義な時間をすごすことができました。斎藤さんをはじめ、職員のみなさんに心からお礼を申し上げます。

（かわはら・ひろゆき）

三重地域懇談会**鈴鹿市子ども食堂（りんごの家）と伊勢市子ども食堂（キラキラ星）のご紹介**

文責：事務局（大島三津夫）

三重地域懇談会（三重のつどい）では、9月14日（木）に鈴鹿市の子ども食堂「りんごの家」のお話を聞き、11月13日（月）に伊勢市の子ども食堂「キラキラ星」のお話を聞かせていただきました。ご紹介します。

鈴鹿市の子ども食堂「りんごの家」のご紹介

鈴鹿市にある「地域に根ざし高齢者、障害者（児）、子どもを持つ人々に対して」支援活動を行うNPO法人 shining 代表の岡田氏に世話人会にお越しいただき、子ども食堂を始めるきっかけ、運営状況や課題、今後の展望など、お話をさせていただきました。

子ども食堂を始めたきっかけは、NPO法人 shining を2014年6月に設立し4年目になり、その頃から母親と子どもの居場所づくりが地域課題になっていたこと。自分たちの組織を知ってもらうための活動をすすめながら、2016年8月に子ども食堂を開催することができた。貧困とは経済的な理由だけでなく、貧困の原因は助けてと言える地域でない事、助けてと言える仲間や家族がいない事が原因であり、周囲の協力があれば決して不幸ではなく、夢を持ち将来に希望をもった子どもたちが育つ、そんな地域で子育てができる場所でありたいという想いで開催している。

子ども食堂の運営は、法人スタッフとボランティア5名前後で開催していて、営利目的ではないが、子ども100円大人300円をもらっている。行政の子ども食堂への理解が無い中スタートしたが、今は鈴鹿市社協が場所の提供など協力してくれている。鈴鹿市は、小学校へのチラシ配布など、徐々に理解が進んでいる。資金は寄付や地域の方々からの差し入れや、参加費から捻出している。

資金、スタッフ、食材調達、場所のすべてが課題となっており、子どもたちが助けを求めて来てもらえる居場所をつくるため、利用できる家を探しているということでした。

伊勢市の子ども食堂「キラキラ星」

伊勢市の子ども食堂「キラキラ星」がある㈱ユキテクノ内の施設を訪問し、子ども食堂を開催している、ボランティア団体「健昌会」代表の前田氏、濱條氏、今井氏、子ども食堂の運営をサポートされている伊勢市社協地域福祉課の小山氏、二見支所の中村氏からお話を聴かせていただきました。

子ども食堂を始めたきっかけは、親の仕事が忙しく

一人でご飯を食べる子どもや、離婚等による経済的理由でバランスの良い食事がとれない子ども

も、気持ちの貧困に陥る子どもが増える中、バランスの良い食事をみんなで楽しく食べてもらえる場をつくりたいという事から始めた。「健昌会」は、光の街の住環境保全を中心に活動しているボランティア団体で、子ども食堂「キラキラ星」は、その「健昌会」が中心となって2017年7月から始めた。発起人の濱條氏が経営する㈱ユキテクノの倉庫を拠点として、月1回の頻度で開催している。運営は「健昌会」代表の前田氏を中心に、メンバー30名弱で行っており、資金は、社協の補助金と参加者からの参加費で賄っている。参加費は18歳以下無料、19歳以上は寄付として500円程度をお願いしている。食材を提供いただいている企業もある。食事は、ホテルの料理長の経験者がメニュー考案から行っており、料理を楽しみに来られる大人も多い。そんな方は食べて寄付をしてもらえる。

参加人数は、初回は130名を超え、その後は100名前後で、子どもが5割弱、大人が5割強で、親子だけでなく一人暮らしの大人も参加している。子どもの参加は小学生が中心で、高齢者の参加もあり世代間交流につながっている。㈱ユキテクノの建物がある区域は、学区の関係で光の街の小学生だけで来られない区域のため、保護者と一緒に参加してもらうようお願いしていて、開催は、月1回、土曜日の5時～7時の2時間で、食事だけでなく、折り紙やお絵かき、七夕の短冊づくりなども行っている。

伊勢市社協は他の子ども食堂の視察同行含め、キラキラ星の立ち上げから関わってみえ、二見支所の中村氏が毎回参加し手伝ってみえます。「健昌会」には若い世代40代のメンバーが多くみえるが、若いスタッフの参加を増やし、思いをつなげて継続していきたいということでした。



スタッフ手づくりのパネル

第四期組合員理事ゼミナールを開講してきました！（2016 年度～2017 年度）

文責：事務局（大島三津夫）

地域と協同の研究センターでは、東海の三つの地域生協（コープぎふ、コープあいち、コープみえ）の新しく組合員で理事に就任された皆さんを対象に、組合員理事ゼミナールを開講しています。2010 年度に第一期を開講し、2016 年度～2017 年度の第四期目は、15 人のみなさんが元気に楽しく受講されています。

組合員理事ゼミナールの目的

組合員理事ゼミナールは、各生協から 2 名の組合員理事と機関運営の事務局が参加し、世話人会をつくり場づくりの相談をし、すすめています。そして、組合員理事ゼミナールの目的は以下の二つを確認し、取り組んでいます。

- ①組合員の願いに応える理事会づくりに向けて、くらしの実感、協働の担い手としての実感に根ざした組合員理事固有の役割を果たすために、「組合員理事の考え合い、学び合う」場づくりをすすめ、そのエンパワーメントをつくり合い、理事の役割と使命を担える確信と誇りをつくり合う。
- ②東海地域の 3 生協の組合員理事が互いに交流し合い、広い視点から生協運動における諸点を考え合い、学び合う価値を創造する。

第四期「組合員理事ゼミナール」の内容

第四期「組合員理事ゼミナール」は、2016 年 9 月～2018 年 3 月の期間で 10 単元を開講しています。主な内容と受講者の振り返りの声をご紹介します。

第 1 単元「コミュニケーションを考え合う」

コミュニケーションってどういうことか学びました。

声：コミュニケーションで大切なのは相手と意見が違うことは当たり前だということを知ること。相手の言い分をきちんと聴くこと。

第 2 単元「民主的な統治、理事会、執行者としての役割と使命を再認識し合う」

理事会の役割を考え合いました。

声：理事とは何だろう、何をしていけばよいのだろうと不安でした。人、組合員にやさしく、敬愛することを大切にしていきたいと思いました。

第 3 単元「生協法を学び合い、民主的な組織統治を考え合う」

生活協同組合法について学び合いました。

第 4 単元「生協運動への知見を深め広げる I」

生協運動の先輩から、創立の思いを学びました。

声：生協のバックボーンとなる理念・精神には国境はないことを知りました。

第 5 単元「生協運動への知見を深め広げる II」

協同組合運動の歴史を学び合いました。

声：「ロッヂデール原則」の精神はきちんと受け継がれ、今も息づいています。

第 6 単元「理事としての政策提言を磨き合う A 単元」

地域社会と生協の役割について考え合いました。

声：生協が地域社会を豊かにするにはどう関わればよいか。地域で助け合うことや、近隣に関心を持つことが大切。

第 7 単元「理事としての政策提案を磨き合う B 単元」

共同購入事業についてもっと利用したくなる生協を考え合いました。

声：「この組合員にとって生協には何が足りないのか」という基本がぶれないように！

第 8 単元「組合員の願いを協働でかなえる」

組合員が参加する場、協働組織のあり方について考え合いました。

声：多くの組合員のみなさんと共に、共感・共鳴できる場づくりを進めていきたい！

第 9 単元「組合員自治と運営参加、協同活動をささえるサーバント・リーダースhipを学び合う」

「こんな理事になりたい」をテーマに思いを出し合いました。

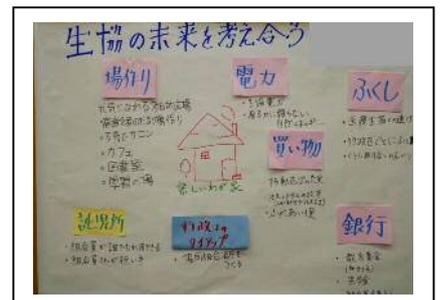
声：素人は素人らしく、その力を十分に発揮して、楽しむ気持ちは忘れずに！

第 10 単元「シチズン・シップを学び合い、生協人、市民としての生き方を考え合いその学びを育みあう」

2017 年 12 月に第 9 単元を終了し、残すところ 2018 年 3 月に開講する第 10 単元のみとなりました。

第 10 単元では、講演と理事経験者の講話から、市民としての生き方・考え方を学び合い、生活協同組合を考え合います。

そして、2 年間の各単元をふりかえり、修了式を迎えます。



第 5 単元のグループ研究から

情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶お役立ちへの第一歩 組合員対応力を 高めよう</p> <hr/> <p>NAVI 2017. 12 No. 789</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 お役立ちへの第一歩 組合員対応力を高めよう</p> <p><コープのある風景> コープいしかわ <こんにちは！生協男子ですっ！> コープあいち 庄田幸平さん <地域に愛される店づくり・人づくり> 生協共立社 暮らしのセンターコープしろにし <わたしの本ナビ> コープかがわ <エッセイ わな猟師の春夏秋冬> 千松信也 <生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品> CO・OPパクパクさんま開き <日本全国ふだんの暮らしを支えたい> 生活クラブ生協・東京 <想いをかたちにコープ商品> CO・OP応援食クッキー <☆突撃☆あなたの町の組合員活動> パルシステム群馬 <明日の暮らし ささえあうCO・OP共済> コープみえ <この人に聴きたい> 俳優 井浦 新さん <ほっとnavi> 生協くまもと ユーコープ</p>	<p>2017 年 12 月 A4 判 36 頁 360 円</p>
<p>▶商品やサービスによる 生協の価値訴求</p> <hr/> <p>生協運営資料 2017. 11 No. 298</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>巻頭インタビュー●わが生協、かくありたい！ 人口最少県だからこそローカルにこだわり 組合員から、信頼して利用される生協を目指す 鳥取県生協●代表理事 理事長 浜江隆二氏</p> <p>特集 商品やサービスによる生協の価値訴求</p> <ol style="list-style-type: none"> 商品から生まれるさまざまな価値を発信する ブランドコミュニケーションの取り組み コープデリ連合会●宅配・EC事業本部 宅配ブランドコミュニケーション推進部 次長 永井雅子氏 組合員との関係を重視した店舗運営を支えるのは 店舗で働くすべての職員を尊重した仕組みづくり コープみやざき●常勤理事 店舗事業本部 本部長 山下英則氏 (株)CMS●専務取締役 山元敏彦氏 業務部 企画設計部門 大西聡氏 買ってもいい商品から買いたくなる商品へ 生産と消費の媒介者としての販路の拡大に挑む (株)東北協同事業開発●取締役営業部長 丹野潤一氏 消費者と向き合い事業と活動を行なう生協はエシカル消費をどう捉えるべきか 日本生協連●組織推進本部 環境事業推進部 部長 板谷伸彦 ブランド戦略本部 政策基準担当 松本英明 <p>●これからの店舗事業のあり方を考える 第10回 注目を集める香港の高級スーパーの視察と 最新のデザインを取り入れるコープこうべの改装 日本生協連●事業支援本部 事業支援部 部長 越後谷道則 コープこうべ●店舗事業部 事業部長 三木一廣氏</p> <p>●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第22回留守でも安心して宅配をご利用いただける宅配ロッカーのサービス最前線 YKK AP (株) ●エクステリア商品企画部ガーデンエクステリア商品企画室長 佐藤慶太氏 (株)フルタイムシステム●お客さま儲かる営業部 部長 大西信行氏</p> <p>●短期連載 人づくりを考える 工場説明会をきっかけに採用力アップ 「おもてなしの組織」を目指すコープさっぽろ コープフーズ (株) ●取締役 石狩工場 工場長 山田英之氏 コープさっぽろ●人事部 広報室 穴澤理恵氏</p>	<p>2017 年 11 月 B5 版 84 頁 定価870 円</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶JA自己改革の現場から</p> <hr/> <p>月刊JA</p> <p>2017. 12 vol. 754</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 スゴイ農業、スゴイJA JA自己改革の現場から</p> <p>①時代を先取りした自己改革で日本一のイチゴ産地づくり —JAはが野（栃木県）の取り組み 岩崎真之介</p> <p>②効率化することで楽しく働け 地域に還元できる農業を —（有）グリーンフィールドの取り組み（香川県綾川町）JA全中 広報部</p> <p>農政トピック 食・農・協同組合への国民理解の醸成について考える JA全中 広報部 統一広報・よい食推進課</p> <p>きずな春秋 —協同のこころ— 童門冬二 私のオピニオン 磯崎功典 海外だより [D. C. 通信] 連載 79 マスコミ報道から見える日米経済対話 吉澤龍一郎</p> <p>短期集中連載 世界から見れば、歴史から見れば ～食・農・暮らし・協同の本質との出会い～ 小農経営へのシフトで自給経済を目指すキューバ 蔦谷栄一 展望 JAの進むべき道 自己改革の要諦は、組合員とのコミュニケーションの徹底 脇野弘典（JA全中常務理事）</p> <p>平成 28 年度 JA 経営マスターコース優秀論文紹介 全国農業協同組合連合会会長賞 農政改革待ったなし！ピンチをチャンスに変える営農経済事業の実践 清野陸彦 / JA さがえ西村山（山形県）</p>	<p>2017 年 12 月 A4判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p>
<p>▶地域における 生協共済の役割とは 何か</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2017. 12 Vol. 503</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 物量と価値量 小栗崇資</p> <p>▶特集 地域における生協共済の役割とは何か</p> <p>開会の挨拶 生源寺真一 地域で築く互助の仕組み —共済の役割と出番— 駒村康平 生協共済を『地域の観点』から考える 江澤雅彦</p> <p>みんなが安心できる明日・未来にむけた共済ショップの取り組み 木村沙織</p> <p>コープ共済連の地域ささえあい助成と健康づくり支援企画について 玉永香織</p> <p>大学生協における共済加入者同士のたすけあいと予防活動 石塚勇稀 小方 泰</p> <p>閉会の挨拶 ■時々再録 情けは人のためならず 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで（2017・10） 堀家春野・内藤道子</p> <p>■新刊紹介 天野恵美子著 『子ども消費者へのマーケティング戦略』 渡部博文</p> <p>■研究所日誌</p>	<p>2017 年 12 月 64 頁 B5判</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 頁数
<p>▶ 医薬品等の費用効果評価の価格調整方法の大筋合意を複眼的に評価する</p> <hr/> <p>文化連情報 2017. 12 No. 477</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>報酬改定は患者個別の重症度評価に焦点 地域包括ケア病棟の機能強化見据えた対策も 東 公敏</p> <p>二木教授の医療時評 (154) 医薬品等の費用対効果評価の価格調整方法の大筋合意を複眼的に評価する 二木 立</p> <p>消費税増税に頼らない社会保障財源の提案 (中) 醍醐 聰</p> <p>第 10 回「来てみんな感謝祭」を開催しました 徳永 望・河村隆道</p> <p>第 20 回厚生連医療経営を考える研究会報告 市ノ瀬 泉</p> <hr/> <p>第 11 回福祉の協同を考える研究会総会・現地研究会 現代社会と協同組合 (9) 地域再生の課題と協同組合…農村・農協を中心に 北出俊昭</p> <p>韓国農業の実相―日本との比較を通じて (16) 米韓 F T A と農産物輸入 ―その 2 品川 優</p> <p>J A 広島厚生連 看護部長・看護部副部長研修をお寺で開催 新宅祐子</p> <p>セントラルキッチンさくの取り組み (最終回) 鈴木さやか</p> <p>香川県における地域の特性を活かした再生可能エネルギー事業 うどん発電とため池太陽光発電 大平佳男</p> <p>岡田玲一郎の間歇言 (145) 介護医療院の意義とマンパワー対策の重要性 岡田玲一郎</p> <p>野の風●上越市の『越後・謙信 S A K E まつり』 尾崎 忠</p> <p>デンマーク & 世界の地域居住 (103) アメリカ：サンフランシスコ・シニアセンター 松岡洋子</p> <p>熱帯の自然誌 (21) 花と街路樹 安間繁樹</p> <p>イギリスの社会的企業 若者就労支援：The Box Youth Project (3) 課題 小磯 明</p> <p>フランスの介護保険と地域包括ケア 小磯 明</p> <p>◇書評 『健康からの医学』を求めて―農村医学から予防医学へ―／小林一久</p> <p>◇自著を語る 多文化共生地域福祉への展望／朝倉美江</p> <p>▶線路は続く (117) 北九州の産業革命遺産 くろがね線／西出健史</p> <p>▶最近見た映画 婚約者の友人／菅原育子</p>	<p>2017 年 12 月 B5 判 80 頁 文化連情報 編集部 03-3370-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

岐阜県食料と健康を守る連絡会

ネオニコチノイド系農薬とハチミツ

1990年代半ば以降、急速に使われたネオニコチノイド系農薬。従来の有機リン剤より安全といわれ、農業や住宅建材、家庭用殺虫剤など、暮らしの中でも多用されています。ミツバチの大量死、虫や鳥が激減するほどの毒性が強く、発達障がいなど、人体への被害も懸念されています。EU諸国では、ネオニコチノイド系農薬の使用禁止・規制に踏み出しましたが、日本では規制どころか、新農薬の認可や残留基準値の大幅な緩和がすすめられています。あまりマスコミでは報道されていないこのネオニコチノイドについてわかりやすく学びます。

日時：2018年2月10日(土) 午後2時～4時 (開場1時30分)

場所：ワークプラザ岐阜 302 岐阜市鶴舞町2丁目6-7

講師：八田純人氏 一般社団法人 農民連食品分析センター 所長

参加費：500円

主催：岐阜食料と健康を守る連絡会

〒500-8879 岐阜市徹明通7-13 岐阜県教育会館402 岐阜県労連内

電話：058-252-3013 FAX058-253-4996

書籍紹介

格差社会への対抗 新・協同組合論 <著者：杉本貴志 編/全労済協会 監修>



【内容：内容紹介】ユネスコ文化遺産に登録された協同組合は、格差社会を克服できるのか。揺らぐ「食」と「職」、そして「地域」を救う可能性を、「協同」する人のつながりに見る。

目次 序章 「格差」と「協同」

第1部 格差社会に挑む協同組合 (第1章働き方改革は福岡から 第2章日本の協同組織金融機関と金融排除 第3章協同組合による生活困窮者支援 第4章格差社会における共済の可能性)

第2部 「食」と「職」を守る協同組合 (第5章「食」を支える協同組合の現状と課題 第6章協同組合が創る農産物流通 第7章協同組合職員のモチベーション 第8章女性労働とワーカーズ・コレクティブの可能性)

第3部 地域で「協同」する協同組合 (第9章協同組合間協同の現状と展望 第10章協同組合の事業連合と連合会 終章協同のコミュニティは東北から) 一日本経済評論社 ホームページから

定価：2,268円(税込) 発行日：2017/11 出版：日本経済評論社

判型：A5 頁数：270頁

研究センター 12月の活動予定

11日(木)研究フォーラム環境世話人会

12日(金)三河地域懇談会世和人会

13日(土)共同購入事業マイスターコース第八期実践交流会、
くらしと生産をつなぐものづくり②

15日(月)NEWS編集委員会

18日(木)協同の未来塾⑦

19日(金)協同組合による大学での学びと進路選択の支援(仮称)②

22日(月)市民講座企画検討会④

23日(火)研究フォーラム地域福祉世話人会

27日(土)共同購入事業マイスターコース⑥

29日(月)常任理事会⑧

地域と協同の研究センターNEWS160号

発行日2017年12月25日定価200円(税・送料込み)

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市中種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>